

「(仮称)江戸川区球技場」の整備について

<江戸川区陸上競技場の改修>



令和8年2月16日
江戸川区文化共育部スポーツ振興課



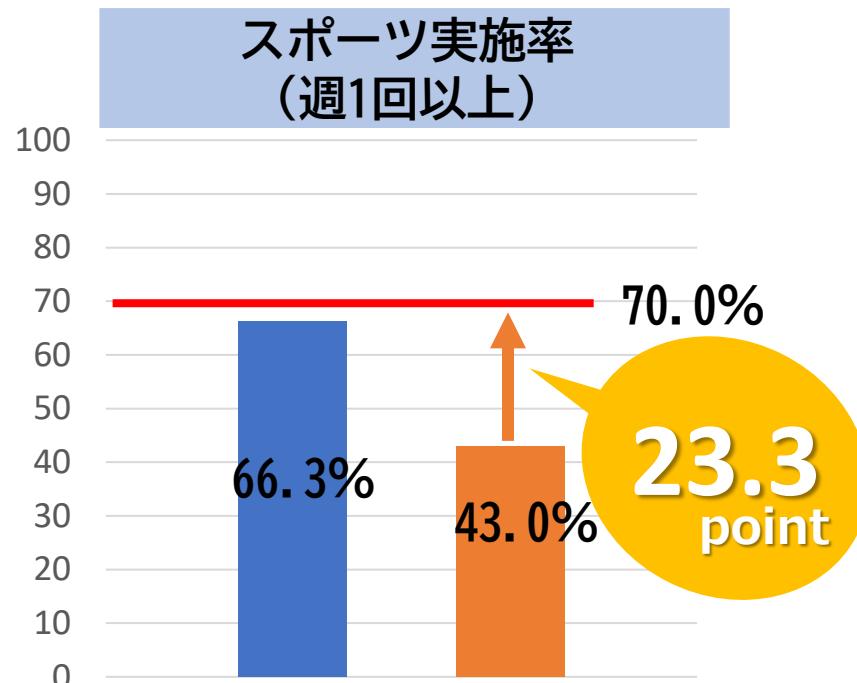
ともに、生きる。
江戸川区

本区のスポーツ環境

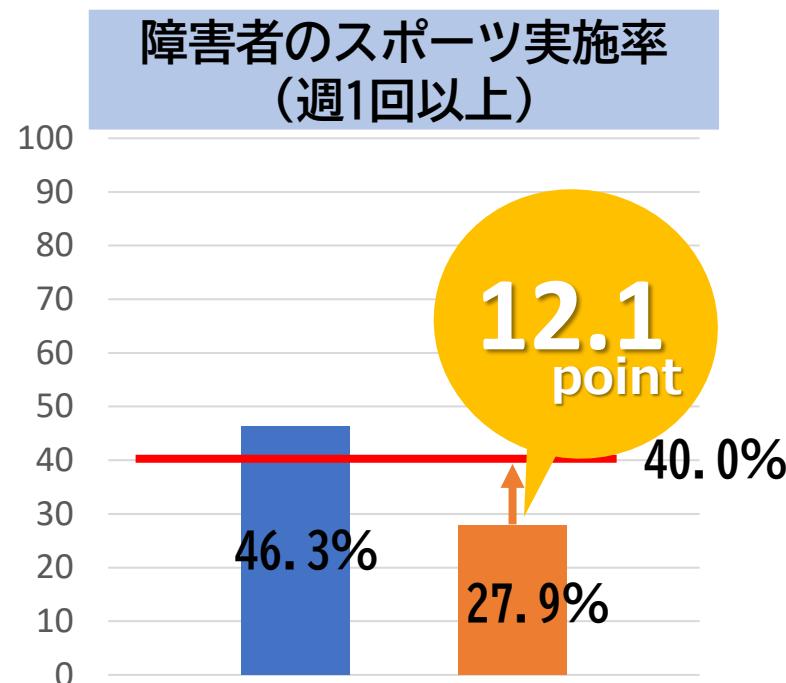
とともに、生きる。
江戸川区

本区のスポーツ状況(スポーツ実施率)

■都実績 ■区実績 — 都目標



引用/都目標：東京都スポーツ推進総合計画
都実績：R6都民のスポーツ活動に関する調査
区実績：R6区民世論調査



引用/都目標：東京都スポーツ推進総合計画
都実績：R5障害者のスポーツに関する意識調査
区実績：R4区民生活ニーズアンケート

本区は東京都全体に比べて、スポーツ実施率が低い。

文化・スポーツ基本構想

1 基本理念

スポーツだって、文化活動だって、自分のやりたいことには、だれでも、なんでもチャレンジできる。

文化やスポーツに取り組むことは、心身の健康に寄与することに加え、社会的なつながりも促進されます。異なる価値観を持つ人々が集うことで、地域の多様性もすすんでいきます。本区の目指す「ともに生きるまち」の実現に向けて、だれもが気軽に文化とスポーツに親しめる環境づくりを、より一層すすめています。

2 取り組みの方針



「する」「見る」「ささえる」という3つの側面から施策を展開していきます。それらの側面が相互に作用しあい、各施策の効果を最大限に高める好循環が期待されます。



文化とスポーツという2つの価値を同時に提供することで、参加者一人ひとりが持つ可能性が広がり、精神面・身体面ともに、より充実することが期待できます。さまざまな場面において、文化とスポーツの融合をすすめています。

3 位置付け

令和3年7月
ともに生きるまちを
目指す条例

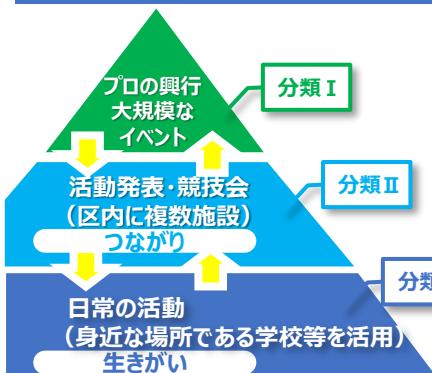
令和4年8月
2100年の江戸川区
(共生社会ビジョン)

令和5年9月
2100年に向けた
アクションプラン

令和5年12月
公共施設再編・整備計画

文化・スポーツ
基本構想

4 施設整備の考え方



- ◆ 区内を北部・中部・南部に分け、**地域特性を活かした施設整備**を行っていきます。
- ◆ 施設整備にあたっては、**民間投資も模索**していきます。



5 地区毎に必要となる機能

北部

歴史あるまちづくりを活かした施設整備



ホール（1,500席程度）、
ホール（500席程度）、
図書館統括機能、屋内アリーナ

中部

新庁舎や複合施設に合わせた施設整備



コンベンション機能、アイススケートリンク、文化複合施設、共生型スポーツ複合施設

南部

広い土地も活用した文化・スポーツ施設整備



屋内アリーナ、球技場、野球場、
共生型陸上競技場、文学館、
ホール（500席程度）

区内各地：学校等を活用した文化・スポーツ拠点、
コミュニティ機能、図書館機能、各種屋外スポーツ機能

令和7年12月 公表

当面取り組む公共施設整備事業

(令和7年9月公表)

スピアーズえどりくフィールド (陸上競技場)の改修

- 現在は、トラック競技やフィールド競技などが競合し、
飽和状態となっている
- Jリーグやリーグワンなど、プロスポーツ等の試合開催に必要な設備や環境を備えた**球技場**へ改修
(座席数15,000席以上)
- 感動や興奮を共有したり、一緒に応援することで、
コミュニティ形成やシビックプライドの醸成につながる

一流のプレーを間近でみることができる施設で、
区民のみるスポーツ環境を充実



スピアーズえどりくフィールド(陸上競技場)

本区の掲げる「パラリンピック22競技できる宣言」を
さらに充実させるための環境整備

【共生型陸上競技場】

葛西南部地域に、3種公認レベルの
陸上競技場をはじめ、様々なパラスポーツが
実施できる環境の整った施設を整備



【共生型スポーツ複合施設】

くつろぎの家跡地に、隣地の清掃工場からの
熱源を有効活用した温水プールや体育館等を
備えたスポーツ複合施設を整備



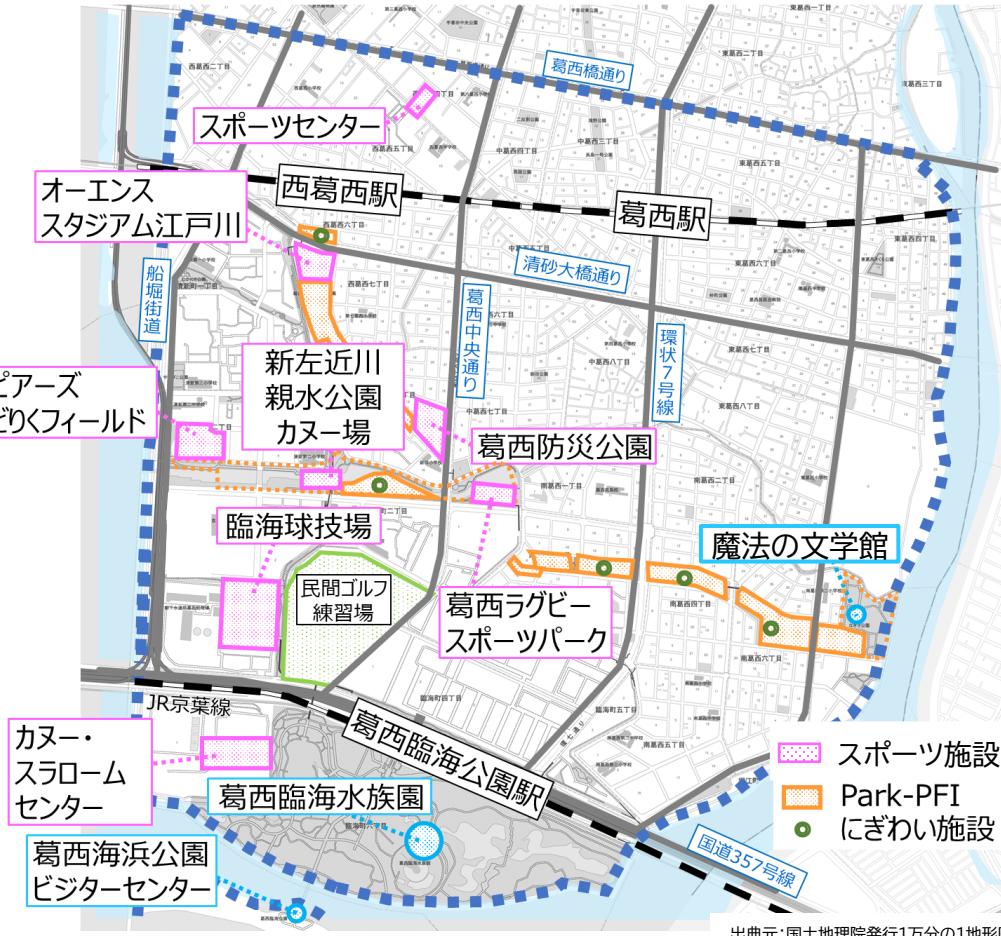
両施設とも、障害がある人も気兼ねなく利用する
ことができる**「共生型」**の施設とする

年齢や障害の有無にかかわらず、
誰もがスポーツや運動ができる環境を整備し、
共生社会の実現を目指す ともに、生きる。

江戸川区

葛西南部地域のスポーツ・にぎわい施設等の状況

海をのぞみ、水とみどりに人々が集い、多様な交流が広まるまち



陸上競技場の今

とともに、生きる。
江戸川区

陸上競技場の現状 ①

昭和59年に竣工した陸上競技場は、日本陸上競技連盟第三種公認で、トラック(400メートル・8レーン)や、ラグビー、サッカーもできる天然芝のフィールド約7,000人が観覧できるスタンド、夜間照明設備を備えている。

施設概要

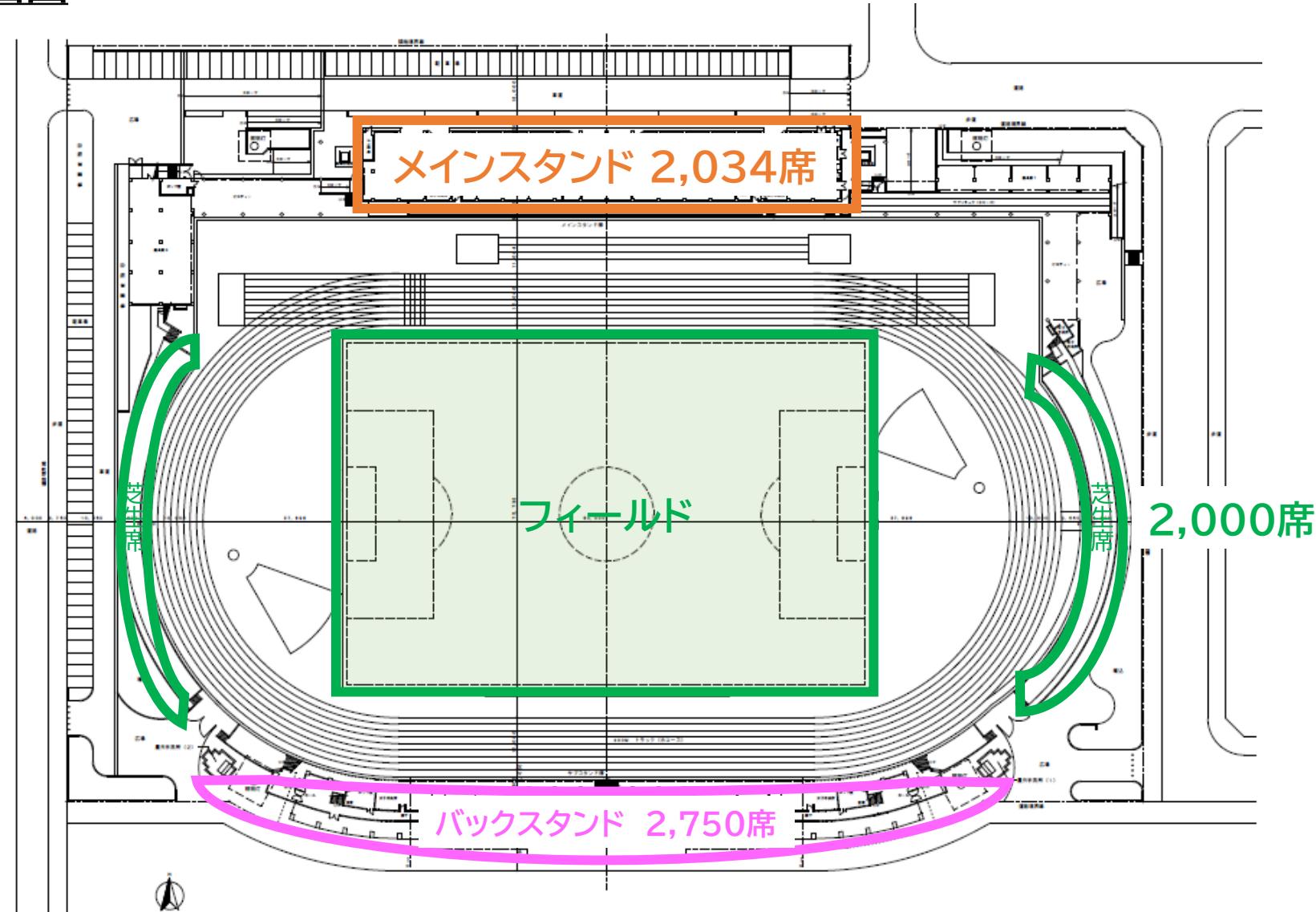


住所	〒134-0087 清新町2-1-1
電話番号	03-3878-3388
最寄り駅	東京メトロ東西線「西葛西」駅下車 徒歩約15分
利用時間	9:00~21:00
休場日	年末年始 12月28日~1月4日 グラウンド管理上、必要な臨時休場日

施設名	内容
競技施設	トラック 全天候型舗装走路 1周400m・8レーン 3,000m障害走路設置 ※日本陸上競技連盟第三種公認
	フィールド 跳躍競技・投てき競技 サッカー等105×70m(天然芝)
観客施設	メインスタンド 2,034人(車椅子席14人)
	バックスタンド 2,750人
	芝生席 2,000人
売 店	1ヶ所
	男女各 スタジアムロッカー25台 コインロッカー40台
	更衣シャワー室
駐車場	95台
駐輪場	300台
エレベーター	1基

陸上競技場の現状 ②

平面図



陸上競技場の現状 ③

敷地条件 等

* は増築を含む改修及び改築を想定した場合の条件

内容

項目	内容
所在地	江戸川区清新町二丁目1番1号
敷地面積	35,786.50m ²
市街化区域及び 市街化調整区域	市街化区域
用途地域	第一種中高層住居専用地域 * 観覧場設置のため特別用途地区の指定と建築条例(規制緩和)の制定を想定
建蔽率	60%
容積率	200%
高度地区	第二種高度地区
防火地域・準防火地域	準防火地域
日影規制	規制値(二) 4h、2.5h:GL+4m
道路斜線制限	1:1.25(距離20m以内)
隣地斜線制限	20m+1:1.25
高度斜線制限	5m+1:1.25+1:0.6(高さ15m超)
隣接道路	西 側:都道 幅員27.5m~43.25m 北東側:区道 幅員16.0m 東 側:区道 幅員12.0m ※ すべて建築基準法第42条第1項第1号適用
公園	第5・5・36号 左近川・長島川公園 面積:18.7ha
都市公園法関連	・建蔽率:12% (便益施設等2%以下、運動施設・公募対象公園施設等10%以下) * 当該建蔽率を超える場合は、江戸川区立公園条例の改正により建蔽率を緩和することを想定 ・運動施設敷地面積(運動施設率):50%以下
景観計画関係	大河川景観軸、臨海景観拠点、親水緑道景観軸
駐車場整備地区	周辺地区
埋蔵文化財関係	調査対象範囲外

陸上競技場の現状 ④



フィールド全景



トラック・バックスタンド



大型得点板



メインスタンド席



車いす席



バックスタンド席



芝生席
ともに、生きる。
江戸川区

陸上競技場の現状 ⑤



正面入口



エレベーター



事務所受付



敷地入口



ロビー



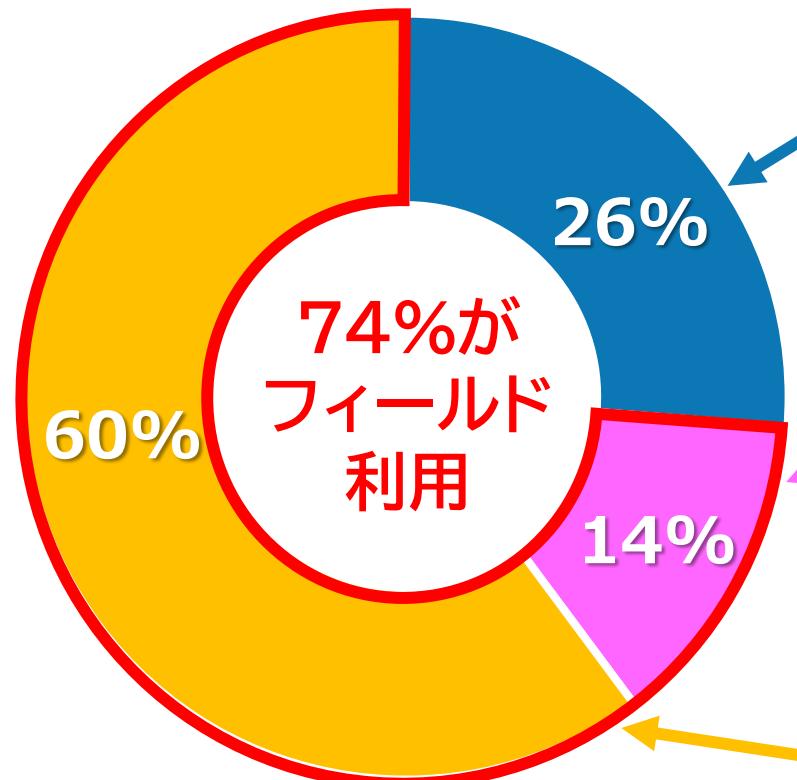
ロッカー



諸室(会議室)
ともに、生きる。
江戸川区

陸上競技場の現状 ⑥

土・日・祝日の施設利用実績



トラック競技

- ・陸上競技大会
- ・パラ陸上教室
- ・区民大会(陸上競技)
- ・区民運動会 等

トップスポーツ

- ・ジャパンラグビーリーグワン
- ・関東サッカーリーグ
- ・アメフト大学選手権
- ・なでしこリーグ
- ・ラクロス大会 等

フィールド競技

- ・区民大会(サッカー、ラグビーフットボール、アメリカンフットボール 等)
- ・都大会
- ・全国大会
- ・区イベント 等

■ トラック競技 ■ トップスポーツ ■ フィールド競技

* スポーツ振興課調べ

ともに、生きる。
江戸川区

未来の球技場の姿

とともに、生きる。
江戸川区

区民が誇れる、誰もが来たくなる球技場

- ✓ 『みるスポーツ』と『するスポーツ』の共存
(「プロスポーツ等試合観戦」と「区民のスポーツ振興」の両立)
- ✓ スポーツによる「集客・収益化」、「地域経済の活性化」
- ✓ 江戸川区らしさ = 「ともに生きるまち」の理念を実現

整備事業の概要 ①

■ 事業の目的

本事業は、江戸川区が推進する「文化・スポーツ基本構想」及び「公共施設再編・整備計画」に基づき、竣工40年以上経過し老朽化が進行している陸上競技場を、フィールドスポーツ専用の球技場として整備する。

座席数は **15,000席** 以上とし、区民やプロスポーツ等が共に利用できる新たなスポーツ施設とすることで、**地域のスポーツ振興** と **持続可能な施設運営** を実現する。

■ 事業方式

民間提案型

(設計・施工・維持管理・管理運営など、「幅広い視点での提案」を求める)

■ 事業期間

提案により決定する。

整備事業の概要 ②

■ 事業対象地

所在地:江戸川区清新町2丁目1番1号

敷地面積:35,786.50m²

用途地域:第一種中高層住居専用地域

■ 施設規模

座席数 : **15,000席** 以上

プロスポーツ等公式戦 開催に必要な観客席を確保すること

フィールド : サッカーやラグビー等球技に対応可能な天然芝 等

■ 法令等の遵守

✓ 建築基準法、バリアフリー法など、関連法令等を遵守すること

✓ 該当する競技団体の基準(Jリーグ規約、Jリーグスタジアム基準、NTTジャパンラグビーリーグワン2025-26 公式戦実施要項 等)を考慮すること

※ 上記の法令等はいずれも最新のものを参考にすること

整備事業の概要 ③

現状の主な課題

① 利用需要過多

- ✓ トラック競技とフィールド競技の利用需要が飽和状態
- ✓ 利用需要が多く、一部の利用を断ることがある

② 老朽化の進行

- ✓ 昭和59年竣工(築40年以上)
- ✓ エレベーターの設置などの改修を行っているが不十分

③ スポーツ拠点としての更なる魅力発信

- ✓ 認知度向上、シビックプライドの醸成
- ✓ 地域コミュニティの醸成、地域経済の活性化

④ プロスポーツ等開催に必要な機能が不足

- ✓ 観客席数
- ✓ 映像・放送・メディア機能
- ✓ ホスピタリティ機能

⑤ 防災拠点としての機能強化

- ✓ 災害時の避難動線・受入環境・電源等の不足

⑥ 周辺環境への配慮

- ✓ 公共交通機関の混雑
- ✓ 駐車場・駐輪場

目指すべき姿 ①

➤★★ 求める機能 ★★

① 多様なフィールドスポーツへの対応

- ✓ 多目的に対応したピッチサイズ
- ✓ 区民利用とプロスポーツ利用の共存
- ✓ フィールドの適切な維持管理

④ プロスポーツ等開催への対応

- ✓ 座席数15,000席以上
- ✓ プロスポーツ等観戦を可能とする照明・映像・中継機能
- ✓ ホスピタリティ機能の充実

② 誰もが安心して利用できる施設環境

- ✓ 車いす席・多目的トイレ・専用動線
- ✓ 誰もが使いやすいユニバーサルデザイン規格
- ✓ 高齢者・子ども・外国人へのわかりやすい案内表示

⑤ 防災拠点としての機能強化

- ✓ 緊急避難場所・帰宅困難者受入れ
- ✓ 非常用電源・備蓄倉庫
- ✓ 情報発信機能

③ 区民が誇れる「にぎわい創出」の拠点

- ✓ 物販・飲食の充実
- ✓ イベントスペースを活用した魅力発信
- ✓ 試合のない日も訪れたくなる開かれた空間

⑥ 未来の子どもたちのための『夢の舞台』

- ✓ トップスポーツに触れ、憧れ、挑戦する場所
- ✓ 学校教育・育成・区民スポーツの循環を生む拠点

目指すべき姿 ②

➤★★まとめ★★➤

1 プロスポーツ等の試合開催を可能とする球技場の整備

2 区民利用との両立によるスポーツ振興の拠点化

複合化の提案も
歓迎します

3 文化・教育・福祉との連携による共生社会の象徴的施設

4 防災拠点としての機能強化

5 民間の活力を活用した持続可能な事業方式の確立

6 江戸川区の新たなスポーツブランディングの創出